



湖海子歌集

下

5
4665
3



門 5
 號 4665
 卷 3

名所千題集下之目錄

五之卷

○國郡之部 并都古屋鋪臺

山城

○山城

六波羅河。六條河。錦小路河

○上京

河。通圓茶屋河。羅城門河。九條河。五條河

○三條河

○京河。都河。下京河。四條河

○千本通河

○大和河。西京河。奈良河。河内

○河内河

○榎津河。難波河。福原河。伊賀

○伊賀河

○伊勢河。三河河。三河河

駿河

○駿河河。甲斐河。鶴郡河。伊豆

昭和十六年一月十一日
 尼野貴英氏贈

○伊豆 相模 和屋鋪 鎌倉 津奈縣

武藏 首飾 多摩郡 目白臺 駿河臺

安房 安房 下總 下總 鴻之臺

近江 近江 志賀郡 志賀郡 信濃

信濃 信濃 更級郡 陸奥 陸奥 高館

伊達郡 信夫郡 丹波 丹波 紀伊

紀伊 紀伊

○里之部 花村 捷里

遠里 山 里 麓里 古里 小里

○瓶村 里 人 漢村

山城 岩倉里 鳥羽里 桂里 加茂里

竹田里 糺里 五水里 宇治 梅津里

井手里 御室里 久瀨里 矢倉里 山寄

山 斜 深草里 木幡里 嵯峨 西院

北 嵯峨 島原 下河原 撞木町 芥生

○里 染 大和 石 上 吉野里 國 拙里

布留里 籠口 後鬼尾 飛鳥里 秋篠里

佐野里 木 過 三輪里 前鬼尾 河内

高安里 神寄里 津守里 長柄里

野田里江口里 浪磨里 伊賀 花垣莊社

伊勢 多氣里日永里 尾張 夜寒里社

深賞里三河 方歲村駿河 一言村社

相模 曾我中村雪下 武藏 池上社

六月是社 秩父社 田面里社 染井是社 根岸里社

大袋村社 小梅是 戀ヶ窪社 新吉原京町 目黒社

箕輪社 新吉原社 日暮里社 關家里社 巢鴨社

杉田是社 下総 首西村社 常陸 潮來社

近江 崎是社 黑津里社 真野里社 蹴上社

浅妻社 志賀里社 滋樂里社 柴屋町 美濃

笠縫里社 野上里社 信濃 妻科里社 岐 咀社

清水里社 上野 小雨是社 溝呂木社 廣沢里社

陸奥 十苅里社 木下社 信天里社 越後

妻有是社 鬼伏社

。驛之部 兵町市过

原、町社 濱、町社 片町社 四过社 外所社

野町社 追分社 山、町社 山市社 藪町社

麓町社

山城 帷子过社 淀 狭 室町社 伏見社

御幸町庄。木屋町庄。大和。初瀬庄。辰市庄。

高取庄。椿市庄。郡山庄。和泉。塚庄。

旗津。伊丹庄。北濱庄。順慶町庄。伊勢。

栗名庄。山田庄。白子庄。東海道庄。尾張。

鳴海庄。三河。吉田庄。御油庄。赤坂庄。

遠江。日坂庄。舞坂庄。見附庄。駿河。

岩淵庄。原取庄。鞠子庄。由比宿庄。寫田庄。

甲斐。鶴瀬庄。駒飼庄。伊豆。三島庄。

相模。塔之辻庄。小田原庄。武藏。花川戸庄。

二本根庄。金町庄。掃除宿庄。高輪庄。室町庄。

深川庄。石町庄。小石川庄。江戸庄。照降町庄。

麻布庄。浅草庄。青山庄。草加庄。塚町庄。

品川庄。藤打宿庄。于住庄。駿河町庄。下総。

巨我庄。近江。土山庄。大津庄。草津庄。

瀬多庄。膳所庄。美濃。岐阜庄。信濃。

流馬宿庄。上野。倉ヶ野庄。陸奥。白川取庄。

越前。木ノ下庄。越後。拍寄庄。

六之卷

寺之部 共塚

濱寺院。坊。院。過堂院。野寺院。大寺院。
山寺院。叢寺院。町寺院。古寺院。小寺院。
寺町院。寺林院。尼寺院。里寺院。作寺院。
峰寺院。神宮寺院。寺山院。

山城

二尊院院。仁和寺院。千菓寺院。法輪寺院。
本國寺院。本願寺院。平等院院。東寺院。東福寺院。
智恩院院。龍安寺院。黃檗山院。高臺寺院。大佛殿院。
宝寺院。大德寺院。醍醐院。双林寺院。南禪寺院。
雲林院院。空也寺院。鞍馬寺院。黑谷院。建仁寺院。
小町寺院。戀塚院。真正寺院。惠心寺院。天龍寺院。

城王寺院。清水寺院。金閣寺院。銀閣寺院。壬生寺院。
御影堂院。真如堂院。清閑寺院。聖護院院。黑森寺院。

大和

班鳩寺院。初瀬寺院。般若寺院。二月堂院。
法隆寺院。東大寺院。達磨寺院。當麻寺院。橘寺院。
漆井寺院。壺坂寺院。岡寺院。元興寺院。七大寺院。
世尊寺院。河内。道明寺院。務川寺院。攝津。
一心寺院。摩耶寺院。天王寺院。須磨寺院。伊勢。
一身田院。世義寺院。關地藏院。尾張。笠寺院。

三河

鳳來寺院。遠江。每間寺院。秋葉寺院。
油山藥師院。駿河。久能寺院。清見寺院。甲斐。

下
山

指尾樂師煙。惠林寺煙。身延山煙。相摸。茶湯寺煙

松久岡煙。建長寺煙。藤沢寺煙。極樂寺煙。武藏

萩寺煙。本門寺煙。平林寺煙。東海寺煙。雄寺煙

竹之丞寺煙。増上寺煙。中野塔煙。羅漢寺煙。浦島寺煙

上野煙。梅若塚煙。寛永寺煙。柳島煙。護國寺煙

駒形堂煙。浅草寺煙。総持寺煙。笹寺煙。目黒煙。日本寺煙

稱名寺煙。木母寺煙。泉岳寺煙。安房

那古寺煙。清澄寺煙。下総。大巖寺煙。真間寺煙

常陸。根本寺煙。近江。石山寺煙。長命寺煙

横川煙。浮御堂煙。永源寺煙。義仲寺煙。三井寺煙

志賀寺煙。日枝山煙。関寺煙。美濃。柿寺煙

信濃。臨川寺煙。善光寺煙。上野。光泉寺煙

下野。茂林寺煙。陸奥。黒塚煙。瑞巖寺煙

出羽。紺満寺煙。越中。那谷寺煙。丹後

成相寺煙。切戸煙。珠煙。紀伊。女人堂煙。那智寺煙

紀三井寺煙。筑前。安樂寺煙

○神社之部

濱社煙。古宮煙

山城。橋姫宮煙。地主権現煙。加茂社煙。太秦宮煙

梅宮陸野ノ宮陸六八幡山陸。愛宕山陸。齋院陸。
 祇園社陸貴船神社陸九下賀茂陸。神泉苑陸。 [文和]
 春日社陸布留社陸。藏王權現陸。三輪社陸。 [和泉]
 蟻通社陸 [摂津] 今宮陸。生田社陸。高津宮陸。
 良服社陸住吉社陸。 [伊勢] 神路山陸朝熊宮陸。
 尾張 津陸 熟田社陸。 [遠江] 秋陸 景山陸。
 甲斐 酒折宮陸。 [伊豆] 三陸 寫社陸。 [相摸]
 江ノ陸 寫陸。 [武藏] 新田社陸。富兵衛陸。王子權現陸。
 神田社陸。龜尾宮陸。攝津權現陸。牛御陸六。三圍社陸七。
 水陸 稻荷陸。 [下総] 香取宮陸。曾我飛社陸。手陸 見陸 女陸 社陸。

阿波訪社陸。 [常陸] 息陸 栖陸 社陸。 鹿島社陸。 [近江]
 竹生嶋陸。 多賀社陸。 [美濃] 惠那山陸。 [信濃]
 戸陸 隠山陸。 御陸 嶽山陸。 [上野] 妙陸 義山陸。 [下野]
 室八島陸。 [出羽] 羽陸 黒山陸。 月山陸。 湯陸 殿山陸。
 越中 立山陸。 俱陸 利陸 伽陸 羅陸 峠陸六 [越後] 弥陸 彦山陸。
 安藝 伊都岐陸 寫陸 陸 [紀伊] 玉津島陸。 淡陸 島陸 社陸。
 檜隈宮陸。 [讚岐] 象頭山陸九 [豊前] 高陸 良山陸。
 立陸 彦山陸。 [備中] 吉備津宮陸九 [筑前] 宗陸 像陸 社陸。

○雜之部

楨津

住江松^陸

伊勢

伊勢の蚕^陸

濱菘^陸

大淀松^陸。不折櫻^陸。鷲嶋石^陸

尾張

藪香物^陸

駿河

鶴芝^陸。伊人^陸

相模

虎ヶ石^陸

段葛^陸。腰越^陸。武藏

扶父松^陸。高田馬場^陸

梅屋鋪^陸。五本松^陸。都鳥^陸

常陸

要石^陸

近江

辛崎松^陸

信濃

布施屋^陸

上野

伊香保風^陸

下野

御花畑^陸

陸奥

武隈松^陸

九面^陸。姉嵩松^陸。空摺石^陸

播磨

曾根松^陸

筑前

不知火^陸

名所千題集卷之五

田喜庵護物輯

○國郡之部 都古屋鋪臺

伊賀

いかのめ^陸伊賀^陸志^陸。船神の車

存義

いささか^陸の日の入伊賀の境^陸ふ

士朗

伊勢

神^陸のいのち^陸杉^陸まき^陸い^陸ま^陸の^陸杉

玉屑

宍^陸く^陸ま^陸楽^陸なる^陸ま^陸伊勢の車

椿堂

おけ^陸の^陸日和^陸い^陸ま^陸の^陸田^陸植^陸う^陸菊

梅年

梅^陸や^陸山^陸ほ^陸く^陸い^陸ま^陸の^陸そ^陸

来鷹

鷲^陸の^陸ま^陸の^陸庭^陸ま^陸や^陸伊勢の杉

千賀女

伊豆

夕影や伊豆の宿を尼の江
伊豆越も小春の汗やぬるゆも

茶静

山城
六波羅

六波羅や舟中すまじ梅の毛
六波羅舟の毛をぬるまき嵐

一宵

全
六條

六條や夕まきの人通る
まよく六條殿の杉まきぬ

涼谷

六條へたそへちるは姥おや

早郎

全
錦小路

雙小くも魚の縁の市ふも
燈の籠もあけ縁の小路も

素忠

大和
西ノ京

堂のあつらふりくわぬの京

琴平松

相模

和田屋鋪

茸物や泰山とては西の京
とくくも椽も葎の和田屋敷
霧日の妻畑まきし和田屋敷

玉光

山城
上京

上京はまき船息や思ふくも
上京へゆく程をぬぬ後の月

抑居

うき京や柚の毛吹てはまき
上京や雪ちるをぬるまき

兼後

河内

なるるの東も採姫の河内うね
堂や河内の山を垣根越

双鳥

河内女うねの子ん出す笑うな

禾木

伊呂
和加

相模

倉

篠々々の松原も鳴る柳も
常や篠々々の松原も

澧水
志け

うはらうや管七りの系馬堂

星谷

篠くさや芒子獲れその松

松蘿

篠倉や大徳かきくまの月

梅壽

武藏
○首飾

かつらや名取のしるし子

壽翁

首飾や板葉巻の小葉如

秋拳

首飾や一寸杖葉入雑煮後

葉壽

ういしうま推るまなき菜ふ

吐山

全
○多摩郡

いとねや田五及つけくま

碓嶺

陸奥
○高館

船唄も車馬の多摩の郡う

たる記

う館のまははか一枯尾也

竹見

う館へまをまきそ只水

詠傳

うまらや岩くみ沈ま中

且臺

全
○伊達郡

まらうまらう伊達のま

一少月

その川果こそ伊達の

春路

西栗禊の露あま伊達の

箕山

ま箱のまははか伊達の

岐久守

○丹波

いさよひ丹波の人と

風芝

出代や丹波の母は

紗雲

加多

山城
通園茶屋

乙より花を丹波にまわす

宇橋

通系り利業もあつた

葵亭

通系りの戸はまはる

哉児

通園ておの孫をいぬま

護物

甲斐
鶴郡

文州や鶴の郡へ入る

蕉西

永日の四月を鶴の郡へ

其行

去る鶴の郡も田舎

梅年

赤んぼの鶴の郡の

護物

入る鶴の郡の

言彦

そとせのはく井も

岐久守

相模
津久井縣

大和
奈良

面くらおき奈良

可盈

當も眼を

士明

着ては杖

宇橋

山ゆや

川家

月も

和未

浪急

几董

梅ら

桌北

難波

五付

出り

米友

厚

来鷹

津奈

山城門

九條

山城

福原

黄多の鳴やけりまの経城門

端の棠此夕露さけけり城門

むけぬ免九條を考揚るる身

おほる月東のまてり九條す

るる其の九條はさむ衣うつ

山城へさむ苗うつるる

山城や夏ふも三日の月

福多へまつる形のちりまき

福多や秋をみる東のまのむ

福多ハ橋の鳴るる赤うけ

蓋村

皇厚

月居

蒼乳

迦孫

召波

玉光

美乳

泉星

大梅

山城 九條

下巻 鴻ノ臺

安房

五葉まてふハなうて柳う菊

いさほしや西条五條の岸車

心けりや五葉まてふ藤系

鴉も枝にねるる鳥の臺

草外て葉も折るる鳥の臺

宿衣下は垣や夏明けの鳥の臺

野吹や雨よ明け秋の臺

清令謀や安房の旭ハ余亦似す

如月の雪の根もあきけり波

つぎ雪の眺もさき安房の鼻

召波

者吾

其翠

逸山

日人

菜角

梅壽

里丸

雀嘴

箕山

良久矢 不古阿

一冊

山
城
三
條

○近江

まのまのたのめをよむのちまら上
鯉鮒の何れも人まををいやめ
ユウののこむををほくろひらる
日らじや日わのつく角を江
陽ののと江をほくく袂くぬ
二条や鹿をよきよ人ひらる
三條の柳をよゆく雪を春
山をよゆく文級の月東くぬ
秋の命更級の柳をよき急

鹿古
十丈
久蘇
宇弘
茶静
大江丸
思父
越児
完素
大梅

○山城
三條

信濃
更級郡

○山城
京

文科の月をよむやすまは
はくくぬ寺の酒をよ田植く菊
文級や菜のまをよ月をよ
本持やまをよ思く水は
涼くまやまをよ思く入
京へ出る徑のまをよ九月を
新まをよ思く思く思く思
徳をよ川をよ思く思く思
まをよ思く思く思く思
扇出のまをよ思く思く思

素龍
禾木
复桂
蝶夢
沙鴻
茶静
露岳
来麿
檀堂
玉光

○紀伊

下

山

○武藏
目白臺

ほやあふけ目白の冨士の草らぬら
東風のあふけ目白の冨士の草らぬら

乙二
胡草

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

一
月

山城
都

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

士朗

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

草雨

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

紗雲

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

百慈

○多
河

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

士朗

○陸奥

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

宗讚

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

民見

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

蝸堂

山城
○下京

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

榮靜

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

赤守

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

利雪

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

可景

免美之
○全
四條

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

可董

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

榮靜

あふけ目白の冨士の草らぬら
あふけ目白の冨士の草らぬら

可董

下

撰堂

○下 總

頼みし四葉のはやや葉とくまは
仮くしのむらけはるる四條の歌

撰堂
其破
保吉

下総の園よりけしし葉の色

保吉

地つとま下總のゆるゆり

昌作

下總のゆるゆるのゆるゆる

圃兆

下総へおのるる川の

玉後之

近江
志賀郡

うらほや志賀の歌ハ草一の雪

雲帯

遠城る志賀の歌ハ時色の歌

鳥翠

志賀郡

けあふと志賀の歌ハ志賀の歌

世南

月ハおのるる志賀の歌ハ

巴傍女

○信濃

お枯の信濃の歌ハ袖よる歌

長翠

あふる歌ハ信濃の歌ハ

斗入

一日おさくや信濃の歌ハ

素麩

陸奥
信夫郡

おのる信夫郡の歌ハ余の歌ハ

杉長

おのる信夫郡の歌ハ

北岳

おのる信夫郡の歌ハ

平焉

山城
千本通

おのる千本の歌ハ

詠序

千本の歌ハ

天梅

○駿河

おのる駿河の歌ハ

存義

おのる駿河の歌ハ

杉長

又世寸

下田

山

武藏
駿河臺

柔雲の毛中しと波の縁のや
刷毛あしと捲く縁のを一氣
見よ白や洗やせり山縁河臺
空際の高ハ明くすくさる
堂や夕日のまきき縁河臺
ハ影や去る毎傍のあすさる臺
枝もあすすまふ縁河臺

宇橋
五光
谷
且
吐山
沙明
碓嶺

○里之部 村遊里

遠里 去る里もさふさふと勢五月男
山里 去る里も懐くさくさく角
山里 山里や響つまおり宵月夜
山里 山里や月よりさるき麻の糸
山里 山里や壁のあつらふ雪日如
山里 山里ハ波岸も余る楸の菊
山里 山里や田植麦刈栗の花
麓里 谷のまき帯の里の日待も
麓里 麓葉焚林下の里に神楽舞

羨如
宇橋
樗堂
謀溪
卓池
米丸
冷水
元碓
奎議

須登也

下

九

古里

古里や荒神杉を賣くのは

烏頂

日とけり古里の夜

摸立

ふる里へもくそほのほをく菊

兩林

古里や山の月夜もやん夜

梅壽

古里は似る人まぐさの月

護物

小里

花の物小里もては相の寄

保吉

水免くく小里に海を梅柳

東芽

初博やみ節孫まのり小里を

分後

ゆあや草を貢する小里

柳寄

水俵のむの小里やはくく

宇橋

孤村

雪雀ふく下孤村のむく

兩塘

穂やくぬ村待はくく孤村を

養里

まの路孤村のむく死る也

元堂

里人

あゆむ里人のむくやむの月

蓋村

里人のむくはむく

保吉

漢村

息つて漢村のむく

暮太

村風の下を孫てある漢村を

樗堂

幟立く家の人形を漢村を

椿堂

まゝるのむく漢村を

了々

まの骨の眼をむく漢村を

玉光

不古

下

下

山城
岩倉里
岩倉の程女あきよほくしきん
岩倉ら志う水人あきの小首丁川
まき梅や岩らうたのうはす庵ま
結うせのあはたはういそのま
夕息のゆか庵んまあん石上
卯のまや池まへまあ五六丁
池上へあまもたや百舌まのま
池まのま新すまうまの元
うまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま

山城
岩倉里

大和
石上

武藏
池上

常陸
潮来

蓋村

け免

春路

巢二

護物

百明

梅夫

護物

馬印

一肖

上毛

乙人

蕉雨

元風

存義

牙乳

星布危

ちる紀

一蕙

越児

木雄

武藏
六月村

伊賀
花垣莊

近江
臍村

山城
鳥羽里

まきまきや潮来あけま貝の原根

紫陽まやうまのあまのうま家

まき掉まはまうまや潮来のあ

まのあま六月村のあま後

村まあま六月村のあま菊

まのあま花垣のあまあまあま

花垣の人まあまあまあま

臍村まあまあまあまあま

あまあま村まあまあまあま

あまあま村まあまあまあま

伊呂波
邊壹

下
田部喜
市鳳
輪之
茶静
谷雄
輪之
宮庵
自光
曉彦
宗拱

賞とてふまゝの葉賞と

初午やちね七井田も東ハ獲

多ねの穂片あふけえ苗とて

淀多羽も若秋底の夕の如

ちみ酔く一由所ぬ十存の里

菱葉の十存も老よとて

麻島やとりなるとる奥ちぬ

逐水のくまや後父の雲射る

相のむちるハくくの星とて

杜鵑梅の星く由強り色

山城
掛
里

武蔵
秩
父

陸奥
十
存
里

加
登
知

全
賀
茂
里

根
津
神
寄

川旁やうくの星の傍一の如

踊るやうくの星のや月の如

篠もい蕪もや桂の角カ觸

白芥もよ蝶もくまやかの如

かろ茂の尾つる葉揚り乾とて

まつしきか茂の布もとて

葉のまや梧もまももの里

惟もやうまむる際とて

赤塚の古たるとん雨の森

赤塚の町乳もくち時とて

杉枝

樗山

護物

几董

一醉

蒼帆

東芽

了清女

龜白

阿惠

下

上

十所

古波二

○古波西

西

古波二

けしきよの首ぬ海もくつき

一榮

移移へ首ぬぬのち根とや川

訓山

朝々や朝々あつる首雨領

茶静

○美徳笠縫里

正月をつく出す木の首西

政道

かえりの里に林ある世集う南

茶静

大和吉野里

宗並子笠縫里の山や舟う南

宗護

一序崎やうしをさるる古もく

素志

尾張夜寒里

之より也の里も枕の言うう南

一肖

けしきよの首ぬぬのち根とや川

来鷹

山城竹田里

ぼんぼんや竹田の里の小を飯

守三

また買はばの出るう浪竹田

お保

もよねる夜も竹田のふ苗ぶ

詠師

全礼

ての川礼のすくくさるる

士朗

あまね礼のあやうねぬあま

杉長

まきや礼のあまをさつけ

茅廣

さきや礼のあまをさつけ

樂山

まきや礼のあまをさつけ

大梅

全玉水里

まきや礼のあまをさつけ

斗入

まきや礼のあまをさつけ

葵亭

加与多

下所

山

河内
高安里

玉手能井ももあやめさきの月
み水もよももさくはやあはれど

蒼乳

さる安の里いふ法さくさくさく

平雄

伊勢

○さる氣里

さる安やま村もさるもありの流

駿吉

上さる安の入口様さくさくの安さく

旬光

武蔵
田面里

藤さるやめさる田面の安の梅

古

政二

さるさるやめさるさくのもはさる

旬光

相模
○曾我中村

藤人やさる安の安さるさく雨

太祇

人の知るさる安中村やさるさく

白雄

武蔵
○深井村

さるさる入さる安さくかんこさる

吾彦

さる安村のさるさく柳のさるさく

昌作

さるさるさる安や安井の安さる

多代女

菓鴨さる安井さる安さるさく雨

宇橋

降給さる安の深井の柳さる

沙明

摂津
津守里

さるさる安はさるの里や田螺安へ

葦村

魚さる安はさるの切落さるさく

五橋

さる苗さる安はさるの袖も流さるさく

子女

信濃
○妻科里

妻さるの里さるさる安さるさく

叢

機さる安や妻さるの里の安

魚太

多曾津

下
五

越後 妻右御 妻形一の鶴もすめり学ばくし
乙桶抱く人う羨む妻の宵月
出代ハコ水書宵の月東く水
妻あはれものみあふ備あうきやろや
くろの月二雁覚の里を通るく
牛曳て福さめの里のわく地あす
花印志根岩免くろも志まきく
まふゆや根岩免くろも志まきく
志まきく根岩免くろも志まきく
中あふやろやろを脊戸の根芥村

尾張 味覚之里 土朗
龜白
子長
とこ女
荷乙

武藏 根岸里 乙彦
杉長
羅城
三津人
みち彦
雀角
永枝
冬彦
秋舟

長柄里 宇乃小中柄の星やろ那標
日ハ申時き柄ゆくの燭支度
水の音昔き柄ゆくの燭支度
灯より守やろ治ハ枯やろ燭支度
宇治ハまきくめろろ二月す
初雪やろ治の小葉あうれろ金
是合やろ治の小葉あうれろ金
昔るりやろ治ハやろ治ハ常物
菜のむも嗅く梅はの月徳し
月しろや梅はくろろの水明と

山姥 宇治里 三津人
みち彦
雀角
永枝
冬彦
秋舟

梅津里 永枝
冬彦
秋舟

津根 奈宇

十

十

井出里

風せまると中や梅津の夕々し

岐久守

野田

菜のむやわらけの井出の里

粟兆

野田

雪のぬや田はる川原つゝぬの里

護物

野上里

橋下よき世田の苗代まゝこり

阜池

野上里

合飲を井中田の煙とまゝふり

南院

野上里

あゝゝゝわ泊まゝぬゝせ上まゝ

士朗

野上里

や合や不敵もせ上もはゝゝ

五陵

野上里

太呪るせゝゝの里のまぬゝや

葦村

野上里

早梅や山室の里の暮るるま

そん

鞠鼓の市所り山室り霞む月

大伏衣村

鶯をくや山室出ぬるかられ里

護物

鬼伏里

せゝゝおをそ敵もあゝゝの夫あゝ

午乳

鬼伏里

や山室り山室の里の暮るるま

素鶴

久瀨里

鬼伏やむかゝゝゝ波のうり

護物

久瀨里

久瀨の橋をく山室りくゝゝゝ

杜蓼

久瀨里

久瀨のうりまやまゝゝゝゝ

秋守

黒津里

まゝの平おむ橋のむぬのすゝゝ

未汐

黒津里

むゝゝの橋も橋も橋も橋も

似曉

下

上

於井
久乃

十所

山

山城
矢脊里

おくくはそゆる 浮生のまはぶ
わくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ
おくくはそゆる 浮生のまはぶ

一肖
杉長
春路
亀尖
存義
蒼虬
草雅
葦挂
キ堂
林曹

山寄里

山科里

指うらや 溪山崎ハ 江の中
山科や 六條の 菟くくけ
山走那や 一寸と 毎く 枝の
山科や 杉葉の 下は 芥の水
山一かや 杉葉の 下は 芥の水
山科へくく 大豆 腐や 夕時 百
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
新 中 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉

春路
椿堂
菜所
米佛
川義
菜角
大魯
萬里
素志
菜角

三河
力菜村

近江
真野里

矢万

下

三

○全 蹴 上

山城 深草里

色坂の蹴上の泥りふもろく
約はまや蹴上を控りて移る
深草の麓の里なき道はく
深草を去るのあまする儘
原村の里も新し秋の中
ふのまや厚みはるも衣の
涼くさやまねもゆるまの雨
産日や其まものふ布苗の里
布苗を云や月雨もまもの
惟も布苗の終りも乾き

芝 禾木 万里

素忠

素童

草均

田喜

西賀

乙二

素迪

掘三

大和 布苗里

山城 木幡里

大和 篋口

全 後鬼尾

山伏も呼吸の川に布苗の里
凍解や木幡の里のかさ
雲公入や木幡の心より
あつねやまのの里ハ大あん
稲垣ハ出てもおれも本幡
歩けりてや木幡の月のふ
臥中もあつても正の初
篋口の懐も片も取つ
後鬼尾の毛も低く
ふも今後鬼の里人老や位

士井

大江丸

越見

可布

梅壽

栄静

蓋村

儿董

可也

志分

武藏
○小梅村

上野
○小兩尾

全
○戀ヶ窪

陸奥
木下

攝津
○江口里

大和
飛鳥里

後鬼村の雪もまじり露の月

下流もや卯春無子小うめ村

明月や水門をくさ小梅尾

正月の霞みまじり小梅むら

古き草や小梅の一き垣

水鏡のり小梅の里や流るる夜

草枯や月のゆきまを恵の窪

日向を照らす心多くと恵の窪

雪子まじり堂のまじり恵の窪

卯春みゆる戸も流る小兩尾

雪もあめぬきり庭や小百村

木のまじり雪の香もまじり

木の下やまじりはくまの雪

ゆきもあもまじり濡るる

世を飾る梅や江口の都

流るる雪は江口の里の月時雨

くらり霞とあめは江口の雪

梅も花も雪の里もまじり

卯春やまじり花の里の市

夕暮の花もまじり雪の市

護物

菓北

谷雄

黙菓

禹立

柳寄

了勝女

衣月

護物

了夜

番民

了夜

谷雄

詠帰

士朗

守光

護物

鳥辭

卓二

草雅

下

下

秋條里

秋志のやまのねくの氷の月
くはるきつ一月秋秋條山

大鏡

近江
○浅妻

歩つるいさる海をわたりし
阿さ妻や厚も厚あたる子枕

元風
榎良
玉光

山城
嵯
峩

晴院もくはるる朝のほろ
暖家の日ゆく水くはる地

湖光
岱年
闌更

西院是

去つる子の舟も暖家の後
春のよめもや暖家の送る信
つの中や暖家の美人の死

一具
蒼虬

大和
佐
野

西院の燈のつるもやま
笠立や佐野の酒をのどく物
中もやみぬくも佐野の小

和水
大江丸
竹加

山城
北
嵯
峩

北さくやちかきくもま
小路家や烟の中子露の音

虚白
松雄

大和
木
辻

昔さくや藤の祝くぬ木
る灯着本道のをよこえ

茶静
玉光

武藏
新吉原
○京
町

旅衣本道の月を枕く
京町のきさねほこ雪
ふる所や傘まはるる雪の

越見
吾辰
宇橋

喜阿
友

下

地

倍濃
木曾

京所や餘よつとむあり雪
木乃よ入て雪白くお紫時

沙明
一具

搦ちらや木乃の二月は雪花

其行

木乃管やそむおむとのえ鹿そ

五蓮

味阻のな月ハ顔まぬくもくそ

茶静

峰ハまけあやの雪や木乃の秋

護物

相模
雪ノ下

地角カハ貝又厚のまの雪の下

空路

ほくそむさうねハゆき雪の下

奎儀

武蔵
目黒

よふこき目黒の橋咲くし

詠歸

村ハゆき目黒の所や白の春

亦玄

大和
三輪里

単よまきさおぬら男目黒が

梅壽

ワケ料や雪よお初る三輪の雲屋

曉臺

玉乃の月ハ輪のまらおまけはら

大江丸

まきさうお経垂はらうと輪の市

素共

水乃のまははらくや之輪の里

田部喜

六はらや之輪のほをのゆ煙捨

菜塙

武蔵
箕輪

うしはらハ茶輪坂もつ時あま

一具

抽のむやまのこの里ハ所つとま

大梅

上野
溝呂木

こそら木やまらゆてまらお五月旬

みら丸

みららそハ時るのこまら時る

旬光

喜由

山城
島原

島原へ舟をりたりや猿月
時をよそふぬけくももも
多由系を向て以てぬきたるは
藤くくつ秋連下河原
静の徳又よけん下りり
いそよあや一足ふりて下河原
初産をむきくもつや下河原
まつ宵やすこいなる下河原
劉玩の扱了泊るや撞木町
はとくくも沙守築地や撞木町

太祇
吾度
元風
吾度
菅三
菊所
管聖
護物
召波
巢兆

全
下河原

全
撞木町

武藏
新吉原

嘗てやまの焚の消ぬ撞木町
むす奴より系うけて羊まて
系之房ハ吉原をぬき沙きり
土口系ハ梅もももも水也
く系子枯枝は水林の今
凍るぬや吉原をぬき房の今
むく川原志かろく猿のあゆま
湖ももももつ志かろの梅は
門前子柳く水く志かろの里
初原やら一歩ハ志かろの里

護物
巴人
巢兆
芳中
日人
應尼
木僊
米彦
舒風
沙鷗

近江
志賀里

滋楽里

志望ハサテモの古のそとを
志々々々や柔福を引くり小春

荷乙
夕夜

栗屋町

志々々々や時をそとておの條
新事やると傀儡の楽屋所

え風
梅壽

清水里

又も来ん清水の里の董くさ
まのや清水の里ハ多き

士朗
雅堂

信夫里

るめ時や志のふれ里の夕日初
月通すは信更の里やあつる

清人
春器

日永里

まはしは日永のいせ及者

夕夜

駿河
一言村

厚しや里ハ日永粉をま
初午や日永の里はおし賣
夷時の一言もや蛙あ

里邊女
梅壽

武蔵
日暮里

日くくハ重をあたや茶七日
人あやまは日くくの中

夕夜
宇橋

上野
廣沢里

月早やむろ海の山ほく
ふろ海や家毎ふ所の時

一宵
首三

山城
芥生里

まのや芥生の里の芥の中
芥生の中や脊負をくよ

一宵
葦村

原年

大和
○前鬼村

芥子もろく芥田持くくまの雨

菓兆

前鬼少も若くもくけりや香蒲散

太祗

はくくもろくまお鬼く宿の物持

椿市

武藏
○開宗里

菓のむも持くくろくま菓あぶ

吾彦

世ふも開宗の芋の片菓あぶ

菓兆

さきいもろく菓あぶくろくま菓あぶ

普記

菓あぶけ付ももまろく菓あぶ

亦玄

くろくま菓あぶくろくま菓あぶ

梅壽

山城
○黒土漆

菓あぶの柿菓あぶくろく菓あぶ

宗護

菓あぶのやむの中菓あぶ朝の月

觀瀾

摂津
○須磨里

杜鰲く柿菓あぶくろく菓あぶ

訓山

まろくま菓あぶくろく菓あぶ

蒼虬

柿行て柿菓あぶくろく菓あぶ

素忠

うろくま菓あぶくろく菓あぶ

騎龍

くろくま菓あぶくろく菓あぶ

日人

まろくま菓あぶくろく菓あぶ

茶静

武藏
○菓鴨村

陸雨の菓鴨ハ柿ハ春眠く

吾彦

菓あぶくろく菓鴨ハ柿ハ雪の一生は

吾彦

柿の菓あぶくろく菓鴨の夕時雨

元醒

柿くろくま菓のり柿ハ菓鴨ハ

喜挺

○松田冠

すゑつての梅すくせん松田冠
養父入の帰るころや松田冠
汐風の松田冠を——梅もみち
朝をそよ海苔を濃くする松田冠
入梅もあつらひの雨の松田村

巢北
馬羊
里丸
粟角
冷水

○驛之部町市辻

○原町

原町や出務もくもく雪の影
鏡子鳴や日影雨ゆく系町の町
梅さくや片なぐくく原の町

護物
口形女
里長

○濱町

末枯や木叶らくくく濱の町
梅くさくやうききき濱の町
濱町へ吹雪くくくく

雪且
玉光
雪且

○片町

片町の燈台廻り——秋の空
携さく片町くくく——

一藤
葺村
季子珉

波加

下州
上州

四ッ过 片所のやうに
四ッ过やとらへもやうな
四ッ过へ出るとさうさう
と川はやね子の汗うはくま
外町の車のさよふゆのさ
原根越へ相のささふ外町
小き崎門も外町のさ日色
嫁入の灯とさふ外町の
四五尺の梅よ月さむ外町
春雨と何と外町の
應尼
素摩
禾木
夏挂
荷乙
未鷹
乙二
懸巢
可夫
笑壺

野町
追分
山市
山町

ふこ月もさぬ外町の着供
追分の模をいり一夏の
追分ハ山とさうさう
追分の灯ハとらへり
追分やまさうさう
山町や廟の出とさう
まうさうやとらへり
さうさうやとらへり
山市や牛の初着の梅の
山市の形を押さう
護物
玉光
未鷹
巢鷲
竹児
星谷
栄李
万里
古波二
入船

野
山

山市
山町

○藪所

新方や船くらとある藪の所
任ふきぬくちう岸の所
志るれつやおもくらのうた藪の所
後川やふん出立の林下所
五月雨や林の所のたのを
たぐや林の所のたのを

兼於在
志る
卓池
一肖
一蕙

○林鹿町

○伊丹

柳さくや伊丹の杜氏出たが
花さくふらや伊丹のふゆの月
岩瀬やふらふらも辨ふ舟のくち

一具
應る尼
表丁

○岩瀬

大和
初瀬

山と瀬や青みらるる波の音
岩瀬や稲妻の音の音
水も初瀬の花の流るる形
お柴とく船の音さよ初瀬の町
まき月や系とくらの音の水
一口よ末拾りや系め宿
とめと水龍とくむ川戸
くたの月水店とく系川戸
はあるの日越る日とく
日越やある尾葉のくた

玉光
希拙
月居
吐山
子龍
巢二
梅塙
應尼
五帆
和末

駿河
○原取

武蔵
○花川戸

遠江
○日坂
東海道

也
不
伊
半
尔

七

八

武藏
二本榎

日坂や煙をくわたり夕ワカ柴
日坂の録しむき色し本葉か

氏
春路

東海道

以待ハ二本榎の月をく
鈴のるも坂の時二本榎の家

小圃
西六

相模
塔ノ過

まの柳の葉成るハ百里くぬ
もちまのや東海をさ山つて

士朗
斗蕊

相模
塔ノ過

菜の心は日陰まぬ境の過
交草ま野人七郎一松の過
春採るまきあうらんぬ境の過
むる白のやまきうりぬ境の過

家柳
二生
雞周
護物

相模
小田原駅
東海道

小田原をくその雨や蔓のちこ
鈴のりや小田原をく小地灯

昔丸
里丸

山城
帷子過

小田原ま匠老のまきよ不二法
かきゆりつてまぬぬ花葉を

一蕙
吾炭

武藏葛西
金町

帷子つてまきあうらんぬ境の過
金町へまのまきえまきまき

護物
斗蕊

全
掃部岩

まの柳の葉成るハ百里くぬ
まの柳の葉成るハ百里くぬ

秋朝
草均

仁
千加豆

草市や鈴子起うのかも人岩
鳴鐘のりの中まきうりや掃部岩

一種
黙高

下

八廿八

○^成柏寄

芦垣のふにけし色の柏寄

大梅

○^{山城}淀

麦と附りそとちもあけ松皮

護物

於うほとみくもるや淀の町

挂五

まき柳や雨あめゆるる淀の株

摺堂

殿福ハ涼しくらん淀の月

素志

とよ向て涼しさきき淀の家

守三

戸屋守り上りあめそそ淀の角樽

季珉

ゆきまきのゆるあかき吉田の家

了邊女

吉田うらうらゆるあまや旅

宇橋

秋風や霧ゆるぬく辰の市

巢北

○^{大和}辰ノ市

○^{三河}吉田駅

東海道

辰の市菓のむの市と味籠

凡十

朝魚のくまら蓋や辰の市

玉光

まきねを先くまの山法師

土朗

さるねとえぬ頻よまききさき

意守

さる輪や牛の角あまやつ

駿鳥

さる輪と旅の目さきを削りけ

杜英

さる輪やゆ月あそその夕霞

砂粒

掛市の油もまききあはま講

羅會

牛追の椿市さぬ夕時句

巢二

山吹や鶯啼の肩り砂大根

護物

加与
芝洋

○^{甲斐}鶴

○^{大和}椿市

○^{武藏}高輪

○^全高取

瀨

山吹や鶯啼の肩り砂大根

護物

七

近江
土山宿

東海道

冷汁や鵜渡人も守智蒲茶

豆のやや土山立の人も来

土山や日く水く是る豆の花

五月雨や土山こたのこつふ

土山や積の青むくま片時ぬ

つゆふて時雨そめりも子雞の泣

あつちややねも志く高るの沓

旅人の思あもさるの 帰る層

世風以室町のしら初はる月

室町や月何うくく陰時雨

杉露

士朗

佛朔

芳汀

菜角

士朗

竹世

宇橋

几董

宇橋

尾張
鳴海宿
東海道

山姥
室町

室町や月何うくく陰時雨

世風以室町のしら初はる月

旅人の思あもさるの 帰る層

あつちややねも志く高るの沓

つゆふて時雨そめりも子雞の泣

土山や積の青むくま片時ぬ

五月雨や土山こたのこつふ

土山や日く水く是る豆の花

土山や土山立の人も来

冷汁や鵜渡人も守智蒲茶

六

武蔵
室町

五満や室町筋をくく

むつ所や二階よりゆる葉の花

室町の葉終るくくる葉の花

五月雨や大津の町の片下

牛のの大津ちまもやまの雪

ねまきくも本宿の大津立子

新氣のち津はくやーゆみ

春日ゆりのうたよ清きまはく

空の白のさくや葉名の旅籠時

ほの月葉名くあつち馬やら

宗讚

素心

玄海美

士朗

椿堂

其行

卓郎

護物

平香

宇橋

津奈
於久

伊勢
桑名駅
東海道

下

三

近江
○草津駅
東海道

上野
○倉野

伊勢
○山田

遠江
○舞坂駅
東海道

おしやわや明る葉名といはば乞
雪踏たくまは日わやうめの系
一厚まきき膏を草津のやまき
飼猪の日あまゆ草津妻
き刀雨のららるるそそ藤のむ
倉うやや牛うらと通る秋のきり
らららららららららららららららら
かこまきく伊勢の山田の早乙女等
まき白や山田の所をや互持る
舞坂の並松ええええええええの秋

一蕙
宗讚
燕山
箕山
士朗
屯
岐久守
みろ彦
似曉
茶静

駿河
○鞠子宿
東海道

山城
○伏見

まは坂や素通まきく伊勢月
をる白や鞠子の汁かおき時分
あはららら鞠子泊の零餘子め
葉搦のまきく子いまきく本宿
まめまめまめまめ鞠子のまきの月
黄きまき出途まきくまきく鞠子宿
まのいまき山吹まきくんまきく
わの井を改くまきくまきく伏見
古手屋まき官人伏見の片附る
人知るぬ牡丹敷のまき伏見

岐久守
みろ彦
似曉
茶静
素人
亀白
阿惠
禾木
壽翁
ノ且
西月
卓沈

未久
不也

武藏 深川

伏見まへにけしき新川の志う水が
深川の暮多むら五月雨
深川はむらむら夕柳
あう川の汐先むら子規
あそきあそび深川の暮ら夕
深川の朝霧下らやけり子
曉や菊の香あたる市幸町
ちちむら紀伊新より始めは
冬の田まかあつた久郡山
ほろむらむらやあゆむ郡山

茶静

保吉

長翠

谷友

季珉

冬亭

白権

瓊山

うは美

巢二

大和 郡山

三日月や浅池へく付小舟の流る
末梢の菖あもい中浅池の宿
初らりや浅池のとほりく起て来
田植して浅池よ出来くは月を
菅の浅池くくあこは梅屋
あそびや日あゆむはつ陰を
約くはハ丘上くく山清
竟待や市所のくは新きき
えりや市所の曉はくくのか
市所の曉のくは目せる時るの夜

三河 御油駅 東海道

甲斐 駒飼

武藏 石町

三日月や浅池へく付小舟の流る
末梢の菖あもい中浅池の宿
初らりや浅池のとほりく起て来
田植して浅池よ出来くは月を
菅の浅池くくあこは梅屋
あそびや日あゆむはつ陰を
約くはハ丘上くく山清
竟待や市所のくは新きき
えりや市所の曉はくくのか
市所の曉のくは目せる時るの夜

松江

川元

杜参

茶静

素鶴

冷水

岐久守

白権

宜妻

亦玄

○^全小石川

不二をえぬ夕暮風きく小石川
増降やいつ日の暮る小石川

宗護
彦彦

下總

○^全我

今古河

け厚や詠もく免は小石川
新よまて水鶴井ふや巨象泊

日人
一肖

○^全木本

梅よついでまを水と巨象の山嶽也
道昔や古河の昔の免もはは

夏桂
み夜

○^全江

武藏 戸

木のもくや河へあくる初対面
ふふ禁江中を麻嶋山もろふ

玉光
白雄
完未

天古
阿江

○^全照降所

兼の露江戸の糸起も松そく
はあふや江戸てまする梅鶴

雙湖
沙明

○^全赤坂駅

東海道

梅提て照降所を休走く
いさくはやくや赤坂八月あま

護物
吳山

○^全麻布

赤坂のうら風をきく月の
かともまぬ麻布八江のふ山が

其破
葛三

水鶴かく麻布くまの月あり
あさ風の麻布ハまふふはくか

麦二
護物

○^全浅草

○^{和泉}堺

○^全青山

名は得たる麻布の層の層の
 浅草や梅すかしく車もの
 らす舟や人の中り枯り際
 まさき一はまの市もさうめ先
 船の舟や浅草のやゝさあ
 浅草の雨もあましく初 谷
 牡丹たのまゝのやうな履
 まゝのや梅もあましく小商
 まゝののさゝか砕けり祝
 やゝのや梅のさゝかのさゝか網

川我
 成美
 備美
 賞望
 車西
 柔角
 應危
 志兮
 岐守
 大江丸

○^{武藏}堺町

○^全草加宿

○^{山城}木屋町

麦餅や梅の庭のもろり
 梅すかしくさくしの庭や歌
 手おろゆるまのさくさく町
 ひととめ味原さくさく町
 茨の芽も出るやまかのつらめ汁
 夏もまて梅やまかの土境
 木屋町の登りあまの相の急
 木屋町へ持て這入る梅枝小
 木屋町の灯もさくさく
 木屋町のさくさく梅枝

蕉雨
 護物
 宇橋
 沙朋
 可景
 志兮
 吾彦
 振三
 多代女
 老標

○其津濱
○美濃
○岐阜
○駿河
○由比
○遠江
○見附
○伊豆
○三島
○東海道

水は清や水は清くさの初時ぬ
北は清や昌隆ひさしけりけり
くしやきや起まはるる岐阜の町
船の籠の籠も甚しきやは阜の町
波のきよ春雨深く由比は清き
朝下りつり葉日ぬや由比の土
おくらきくは附の長き橋や
三日月や見附の君の小籠くさ
猿まの足跡泊るや東の月
山吹や三島ハハハハハハハハハハハハ

大江丸
未木
榮静
其破
護物
三生
宇橋
一樓
岐久守
美濃彦

美濃
之由

○駿河
○島田
○東海道
○伊勢
○白子
○撰津
○順慶所

朝白くくさのけりやと時立
くしはなを峰をさ時時の変相
木枯やら時ころまの泊る
そのけはひさしきる三島や枕の花
竹葉町の夜店の横嘆まき
白葉や竹葉所のあつ雨
産まきや序の序はて白子と
けちきおや白子の岩の沢汁
藤のむくくえり白子のきさき
早くくさ時田泊るや東の

年緒
右臺
卓郎
護物
百堂
素鶴
みん彦
草馬
禾木
柞枝

武藏
品川駅
東海道

さくら田の宿のこころ
品川はまきこ宿のちかやまの月
品川の東は水かき水かき
品川の子足釣や日の目さ
品川の沖はさくら十あぶ
志願川や沖のさくらま
白川やるまきかき
志願川のまきかき
白川やるまきかき
志願川はつらつら

箕山
杜夢
太橋
石河
如松
史提
存義
千影
涼清
梅歌

陸奥
白川駅

越前
折岩

全
千住

江
瀬
多

全
膳所

さくら田の宿のこころ
品川はまきこ宿のちかやまの月
品川の東は水かき水かき
品川の子足釣や日の目さ
品川の沖はさくら十あぶ
志願川や沖のさくらま
白川やるまきかき
志願川のまきかき
白川やるまきかき
志願川はつらつら

五月
己人
五湖
蒼虬
多代安
表丁
一隊
夏桂
士朗

世之
比

一

東我

草木の色やよしく日さしけり宿の城
 鳴鴨も羽をひらきけり復しの町
 水鏡の日永をそほゆるの西城の菊
 春の雪やほゆるのそよ風あつら
 赤麻呂まゝかゝる櫓や洗る泊
 船をわたりつゝさきへ洗るの宿
 枝の川や先曉のするの所
 雁帰るゝはけはけは後河所

東我
 田越喜
 益賀
 川原
 省吾
 小園
 保吉
 奎議

信濃
○洗馬宿

武藏
○駿河町

名所千題癸白集卷之六

○寺之部 吳塚

○瀨寺 抽の心と赤くまのまや瀨の寺
 ちほ寺の白の葉山を吹より
 瀨寺や晴まのまのまの松の心
 ちほ寺の波岸まのまの秋の雨
 ちほ寺の百合の心けり谷の坊
 ちほ寺のまのまの谷の坊
 ちほ寺のまのまの谷の坊

吾彦
 黙巢
 羅合
 梅夫
 葦村
 吾彦
 一具

波

下

三

。过堂

过堂も疎くさしある沙行の
出来輝や过堂よまて太のあり

子彦
爐扇

过堂よ懐なく雨の晴るうか

沙明

野寺

常火や野寺よ入も一さりの又

保吉

山の棟や寺の棟より赤い

佛朔

新白つや野寺の屋根ハ鳩曇

了々

一じりり柿の皮下る野寺うか

双湖

相の系さくや野寺の堂供貴

鷺堂

大寺

大寺や素湯のまじり秋のさき

白雉

大寺やはまて機もむゆの中

寄例

山寺

大寺や夏ものうき花あてふ

如意

山寺や門を玉くわりむらさき

樗良

山寺やはちりしるる稲の秋

菱垣

山寺や改甲かうくの屋掃係

舟静

夕鳥やちかみのまき山りす

入船

。藪寺

山寺の機よりまきる牡丹の秋

阜郎

藪寺や水鏡まよハまきる

千崖

藪寺や夏ものうき花あてふ

樗良

征のちかよふまきるまきる入藪りす

守光

藪寺のうきうき入るる保生うか

箕山

津
也
更

三教の角力果たりたるを色を

○町寺

町寺の石のつくまをまゝの入

阜二

町中のもはひ中へまはるるの如

禾葉

花のまゝにして志をくらしし町の寺

護物

古寺

古寺の石のまはるるをまゝの如

葦村

恵の猫や春のまはるるをまゝの如

暁臺

あまのまはるるをまゝの如

保吉

古寺や春のまはるるをまゝの如

素郷

古寺や春のまはるるをまゝの如

夏桂

小寺

漣のまはるるをまゝの如

蒼乳

末不古
天阿

○尼寺

尼寺のまはるるをまゝの如

葦村

○寺林

寺林のまはるるをまゝの如

川崎

木芽のまはるるをまゝの如

雀子

○寺山

寺山のまはるるをまゝの如

大梅

寺山のまはるるをまゝの如

全

○寺町

寺町のまはるるをまゝの如

白雄

寺町のまはるるをまゝの如

保吉

寺町のまはるるをまゝの如

みち夜

木瓦のまはるるをまゝの如

双湖

木瓦のまはるるをまゝの如

守光

下

三

○里寺
尾てくや楮扱はくは楮く旨
里寺や菜の毛つくく和穀垣
喜遊
禾葉

○里寺
里寺や月のひきよふ芥の中
卓郎
夏挂

○作寺
作寺の飯飯をやーん露む
静観
田都喜

○作寺
作寺や梅いろくのまを説
名澄
森代女

○峰寺
峰寺やけくま影ふく能夕
似暁
夏挂

月時寺はまをく峰の境

○神宮寺
神宮寺の裏及水や梅の露
敬高

○神宮寺
標ちる道のおくー神宮寺
小圃

○班鳩寺
元日やいろく寺の豆腐買
柔静

○一心寺
あふふきやくの申結一心寺
月居
玉光

○一心寺
明月やまきい出き水く一人寺
一宵
巴水

○一身田
急く草花まを露涼ー一身田
佛朔

左美之
伊勢

下

四

迎江
石山寺

大和
初瀬寺

全
般若寺

極月や枯木の中枯一身田

山吹の東の^{お寺}や一牙田

稲つやる山寺の石の中

三日月ハ石山寺枯くくく

初瀬寺重縁教持くく杜守

早合や初瀬寺くく東の中

堂や木らもくく初瀬寺

経書や雨雪さハく初瀬寺

障をくく火を焚くつせ寺

般若寺能積てくくく

一具

宇橋

柳居

木人

淋山

守三

一種

棧車

川崎

枚長

武蔵
萩寺

山城
二尊院

般若寺の葉よ吹きくくかまのき

鹿のきよき矢棄りく般若寺

萩寺ハ萩のちくく極月く

萩寺や木ハ盛くく

萩寺よりくく又菅奈

竺の松子鹿の困くく二尊院

新羅子のけくく二尊院

寺くく二尊院

卯のきや雨の還れ二尊院

杜ゆをもくく二尊院

杉露

楞山

一蕙

元堂

白鳥

宗讚

蒼虬

小圃

木木

護物

下

下

仁^全和寺

仁和寺とまをねく揃ひつゝ
 仁和寺の秘くつゝ入や
 仁和寺ハ京の田舎の
 仁和寺や此歌の題を
 仁和寺ハ本殿の
 まろ柳や不ひ
 明月の露何
 日本寺や
 乙多の和
 堂の吟

素志
 月底
 与人
 李崎
 柳寄
 長翠
 巢二
 逸山
 岐守
 標堂

大和^{大和}二月堂

安房^{安房}日本寺

紀伊^{紀伊}女人堂

山崎^{山崎}于菜寺

全^全法輪寺

白露のナク
 帆抄
 若く
 賞
 法輪の
 梅
 法輪の

白湯女
 羞女
 葵亭
 白絲女
 谷雄
 禾木
 士朗
 葵亭
 塊翁
 菜所

仁保

○^全本國寺

万葉の傳く史も本國寺
伝ふよりの繩の寺の所 本國寺

素志
禾葉

○^全本願寺

大坂の牡丹池のけぬ本願寺

召波

七夕の夜も余りまをる本願寺

乙二

出りしやも 本願寺

春魚

時自らの 本願寺

巖道

堂の 本願寺

千尋

○^{大和}法隆寺

一葉古法畑も 法隆寺

東峩

世の 法隆寺

阿古丸

麦秋や木も 法隆寺

禾木

○^三鳳来寺

草野や百人合も 鳳来寺

曉臺

○^{武藏}本門寺

日影も 本門寺

青霞

木免や杉も 本門寺

宇橋

灌佛や西も 本門寺

兼角

堂這も 本門寺

曾人

○^{山城}平等院

川物も 平等院

宗拱

寺も 平等院

君縹

秋風も 平等院

守三

寺も 平等院

五陵

寺も 平等院

柳川

○^{武藏}平林寺

寺も 平林寺

柳川

○山城 東寺

先涼ぬ東寺はちうき風とて
據一ツ東寺のまをて尋ふ
祇園の余をよ東寺の静之
堂ののちちちちちちちち
西院のふ東寺つて雪ふる
本枯や松のまきし東福寺
夕々まや五葉の中東福寺
回廊や産福をてふ東福寺
色丁や甥の信とて東大寺
いと松や南よむふ東大寺

召波 玉水 左一 迦孫 宇橋 成美 岳輅 得一 葦村 大江丸

○大和 東福寺

○大和 東大寺

○河内 道明寺

○武藏 東海寺

○山城 智恩院

虫丁於古とてんそは寺
日くし秋の白くは寺
生海共の波とて東海寺
涼とて東海寺
明月の松とて東海寺
松をよま一とて東海寺
智恩院の静とて智恩院
所中子楸を入とて智恩院
海両よ東とて智恩院
陰とて東とて智恩院

希拙 玉光 召波 全辰 兔柳 護物 蝶屋 關更 一茶 夙也

相模
○茶湯寺

種かてく流しるまぬり見院

茅丸

かんこりやうや徑より茶湯寺

雀角

はしちりてはふりて茶湯寺

柳田

茶湯寺のりけりて茶湯寺

禾木

近江
○長命寺

名月すくくくく長命寺

元雄

水無月やうりて長命寺

護物

山城
○龍安寺

水無月やうりて龍安寺

巢居

水無月のりて龍安寺

啓山

信濃
○臨川寺

名月やうりて臨川寺

一具

厚みやうりて臨川寺

荒尔

山城
○黄檗山

黄檗山のりて黄檗山

魯仙子

全
○高堂寺

黄檗のりて高堂寺

梅子

高堂のりて高堂寺

吾友

高堂のりて高堂寺

其古

高堂のりて高堂寺

竹鬼

高堂のりて高堂寺

一具

高堂のりて高堂寺

五陵

尾張
○笠立寺

笠立のりて笠立寺

士朗

笠立のりて笠立寺

葛三

笠立のりて笠立寺

西考

甲斐
○拍尾茶師

拍尾寺は新白おきまんふんふんふん
かきくまやまき田んぼふんふんふん

茅磨
碓嶺

武藏
○樵寺

本味多や拍尾の木の葉のふんふん
ほむそめい骨のかきものをまはり堂

護物
岐久守

美濃
○掃寺

うや寺のふんふんふん
樵寺の灯もまきふんふん

一蕙
棧車

出羽
○鯛満寺

掃寺と日比つえふも掃くうん
掃寺のふんふんふん
友軒の中ふんふんふん

士朗
蒼乳
妙扇
依平

近江
○横川

秋風や波りふんふんはく鯛満寺
ゆくまや横川へのふんふんふん

真侶
葦村

山城
○大佛殿

さかいや横川のふんふん
大佛の柱ふんふん

素人
玉光

宝真寺

大佛の餅ふんふんふん
むくく餅ふんふんふん
まきのふんふんふん
本免のふんふんふん

二柳
士朗
蕉雨
葦村
三子雄
光浪

○大徳寺

北の草子福告るるゆる大徳寺

召波

田の鳴水のまゝ大徳寺

椿堂

庭つゝとぬ梅の白しや大徳寺

芝郷

百合提て大徳寺もるまじりく

草也

○醍醐

石礫もつゝ二度に喉はぬ梅二枚

召波

夕さくゝ醍醐の梅の白く咲

環山

○達磨寺

堂ももあしやあしや達磨寺

みら夜

達磨寺の法住のめり葉のま

守豊

○當麻寺

南麻くも木槿さく白く疾く

嵐香

葉さくゝや當麻の藤のくつ水口

馬梁

橋寺

くはにこの橋さくゝ川寺く水

大江丸

よきとや橋寺も田く急時

角浪

○竹久寺

あつよゝゝとて時角の竹く

みら夜

五月雨の志あし寺り叶く

宇橋

寺の涼くゆりや寺ハハ

双史

○大巖寺

初雪やて物本を成大巖寺

巢兆

昔田吹風のを戸さよ大巖寺

大鏡

○双林寺

白糸花や鈴鈴のかく双林寺

雨鴻

鶯の水くけさく寺や双林寺

冷水

○染井寺

咲つゝ染井寺も新よて染井寺

茅磨

多曾

武藏
増上寺

沼てゐる水のぬるむやめ井ち
すい風や花のくみ増上寺
春雨あまるとさきしれ芝の積
培るしゝみ葉よく水増上寺

亀貝
中露
双湖
亦玄

大和
壺坂寺

壺坂や佛の積ちちるもち
はな垣やとて通るは露のち
ふ相や敷を足さし南禅寺

春路
忘方
藏六

山城
南禅寺

葱割む積ちちる南禅寺
ふくは雪足豆腐や南禅寺

キ堂
護物

武藏
中野塔

石梅や長者屋敷の塔佛

日都喜

丹後
那古寺

んてもろの中野の塔や赤の杉
子あや中野の塔ち里の中
那古寺の積ちちる時を

小圃
護物
逸山
旬光

越中
那谷寺

ちりそ涼し赤おの積ち波の春
朱おや波の底赤おの積
那谷寺や池の泉沙門雲の雪

柳居
禾木
樗良
呼亭

紀伊
那智寺

葉橋の本のりふふし那谷の石
川うすなや碧ふし那智の積
あらしやて井ちる那智の塔

一蕙
一菊

武藏
○羅漢寺

羅漢寺や人孰やふかりし
好漢寺や見亮くきん友の月
羅漢寺に佛よはるむむきん
羅漢寺の夜はまゆりやまのり
羅漢寺の一夜はむらじの杜
寺ありや厚もいんきよの月
寺ありや好徳のまゆりの雨を積
ねよ厚も好徳もきんきん
羅漢寺や厚も林院の心葉は垣
照るよや厚も好徳の月の光

谷 藤
玉 鉉
亀 羊
東 城
麦 海
玉 光
宇 橋
麦 村
一 月
連 志

遠江
○無間寺

山城
雲林院

武藏
○浦島寺

全
○上野

全
○梅若塚

たつ秋や厚も好徳を垣
よよよや厚も好徳の人の影
時よよや浦島寺のうら表
十三夜も好徳もきんきん
蓮池も上野の入りもよよ
らもよよも好徳もきんきん
よよもよよも好徳もきんきん
雀子よよも好徳の影掃除
垣越よよも好徳もきんきん
梅も好徳も好徳の影

巴 水
津 水
長 翠
護 物
玉 川
卓 池
涼 谷
蒼 竹
可 景
全 存

良
壺

近江
○淳御堂

梅の影の雪後いふ後よかき水々も
十三夜の月をこころふも深き堂
舟よせて福かけけりやう記法も
鳩の巢のそまをけしめや淳御堂
鷹も待らりの的やう来は中
水もりのよき日如や深き中
石寺や林のちよき石の昔
岡寺や後も志しけり事の雨
空也寺の影龍吟ぬ恒とふ
後摺の本を風吹や空也堂

阿志
方明
椿堂
梅價
采友
好く
里邊女
吐山
恒丸
烏翠

大和
○岡寺

山城
○空也寺

全
○鞍馬寺

全
○黒谷

嵩や東はさけりし寺也寺
志しけりや月しつる也のまの恒
空也寺の影龍吟ぬ恒とふ
了の脊よおのし鞍馬の益縁
本つしきのまを川寺う鞍馬寺
黒谷の初夜さく月の中川が
黒谷の繁きる便やうの梅
くらんを遊ませるや采古も
黒谷の影よきやうの記法
く黒谷の影よきやうの記法

雲帯
布雪
呉洋
米彦
一樓
几董
宗護
右臺
巴水
春路

久
於

大元興寺

駿河 久能山

武藏 寛永寺

上野 光泉寺

元興寺のつらふらふの火

元興寺とておとこ小寺の

久能寺の葉や十日も待た

白雪や久能の山のかの秋

是を日や雪の枯る久能山

久能寺や月あるまゝ書白

久能寺の葉や十日も待た

雪も入上るの巻や寛永寺

大のまゝのまゝのまゝの

田舎裏の水鏡の光泉寺

玉元

梅壽

け免

秋朝

清風

希拙

詠歸

川我

護物

春夜

陸奥 黒塚

武蔵 柳島 勘見宮

摂津 摩那寺

相模 松ヶ岡

鶴岡のおまゝの光泉寺

黒塚や納ハ人々け道はりく

くは塚ハ五月日暮や柳島

龍泉寺や江戸の田舎の柳島

くは塚ハ五月日暮や柳島

鯛ヶ位羅尼くくく本島

摩那寺のまゝの柳島

まやまのまゝの柳島

鳥居を穿つ事つるわらわ

世のわらわらわらわらわ

箕山

曉臺

赤守

太長夜

分鏡美

春路

大梅

菓二

葦村

護物

^{下総}
○真間寺

董つむしをたぐふ麻しき川急
白雲の流るるをわくぬ志のち
入海や木のりまはく志の積
たのむ寺は燈をいそぐ鴨のあ
と味編やふまや雨の建仁寺
建仁寺の坊僧さぬほくきす
卯骨あはるるくく建仁寺
月まひる積るあけ人建仁寺
堂をそま葉をいそぐ建仁寺
まの積のあはるるくく建仁寺

日人
南涯
應々
素卿
布雪
曉臺
夕代女
えん

^{山城}
○建仁寺

^{相模}
○建長寺

^{相模}
○藤澤寺

^{山城}
○小町寺

^全
○戀塚

よくくくはあはるる葉うね
藤澤や菊ふるるあけ
おひちやくまをそ積るの
積のあはるるあけおひちやく
年まはるるはあはるる雪の
くく積るる藤つるる小町寺
積るるあけおひちやく小町寺
あけおひちやくあけおひちやく
あけおひちやくあけおひちやく
あけおひちやくあけおひちやく

葦村
天外
豊女
雀角
葦村
音阿
護物
都雀
尺艾
伏力

○^左真正寺

日らりやまねの恵塚村もあつて
恵塚の村も一とえをまゐり

夜
大鏡

河内

○務河寺

巨磨庵もまんの庵紫の真正寺
尾谷の寺もまよぬ真正寺

湖月

相摸

○極楽寺

竹林や務河へまよ新羅智
明安もまゐりけしや務河寺

詠歸
春路

武蔵

○護國寺

牛久しや卯の寺もまよ極楽寺
栗山もまよ妙月原も極楽寺

谷雄
一肖

○^今駒形堂

護国寺を通りぬり山をまの杖
いふつりや駒形堂ハ人の中

小圃
寺

常陸

○根本寺

駒形や妙見寺まよ一御寺
さしきまよ根の寺もまよ根本寺

宇橋
恒丸

山城

○^山真正寺

聖多幸夷根まよまよ根本寺
まよんまよまよまよまよ真正寺

一肖
蒼丸

まよんまよの粥もまよりや真正寺
まよんまよの棒もまよりや真正寺

静觀
國村

まよんまよの杖もまよりや真正寺
まよんまよの杖もまよりや真正寺

汶水
一肖

○甲斐
恵林寺

まきまきのうらまひなる様
恵林寺の東や月日の小曲
まきまきのうらまひなる様

○近江
水源寺

水源寺のうらまひなる様
日ハ西に暮れん越しぬ
水源寺のうらまひなる様

○山城
天竜寺

天竜寺のうらまひなる様
花の匂も面白し
天竜寺のうらまひなる様

○摂津
天王寺

天王寺のうらまひなる様
梅の匂も面白し
天王寺のうらまひなる様

元

控

護

物

竹

窓

曉

臺

環

山

少

女

長

翁

一

月

○遠江
秋葉寺

秋葉寺のうらまひなる様
月夜に秋葉の中は
秋葉寺のうらまひなる様

○全
油山薬師

油山薬師のうらまひなる様
はるばるのうらまひなる様
油山のうらまひなる様

○武蔵
浅草寺

浅草寺のうらまひなる様
えりや羽衣のうらまひなる様
浅草寺のうらまひなる様

古

梅

夫

子

房

女

双

女

○惠
天

安樂寺

萬のたつる古泉気安楽寺

石流

武蔵 総泉寺

万代の千葉の馬や安樂寺
月さきとよひき花村の安楽寺

復桂

左 益寺

はるあふやねふく 総泉寺
笠をかや雪の降るそらうら

草均

山城 坡王寺

益寺のうけとてきく 花のまゐる
妓王寺の結清くうら

好く

妓王寺の月やあまのうら

宇橋

清水寺

雪のあふるはは水の流るあふる
清くや唯れ移るまは

素心

金閣寺

はらうとて草のむくそとて草のむく
本は入やあふるうら

杉長

銀閣寺

秋のあや雀のさかぬまはあふる
秋のあや雀のさかぬまはあふる

詠歸

安左

稲川や鎌をきゆる 鎌倉寺

和来

下

上

駿河 清見寺

月より清見寺の松やうすもはく

五

十月の不二のくさりの清見寺

恒丸

なる竹の波もやうに清見寺

其翼

白波のうららる松や清見寺

柔静

安房 清澄寺

清澄の池のうららるる松

逸山

清澄のふの松やうららる

杉長

清澄の松のうららる

越見

近江 義仲寺

義仲寺の文儒てくさるる水

素志

義仲寺の松のうららる

雄咏

義仲寺の松のうららる

駿吉

丹後 切戸文珠

けりまやうららる文珠のうららる

蒼鼠

いろも松群をくさるる切戸哉

玉光

木枯の月や切戸の松のうららる

棧車

紀伊 紀三井寺

松のうららるる松のうららる

里丸

松のうららるる松のうららる

暹行

松のうららるる松のうららる

自光

松のうららるる松のうららる

一樓

武蔵 目黒不動 竜泉寺

目黒の松のうららるる松

帰焉

目黒の松のうららるる松

詠帰

目黒の松のうららるる松

三院

善免

山城 壬生寺

鹿守の畑 壬生への新証さるゆ也
壬生への白砂 雨ふるるや免れ
壬生寺を出入るるも葉の吉田が
片草のふもよるるや壬生念ふ佛
菓本のよもや壬生への踊りのつる
桐のふもや対免くも葉の堂
六月の初まはるるも葉の市
その巾子衣 下りり 雨の影を
乙多のよもよるるも葉の市
一葉 ちる 隠るの影や山影堂

田都喜
一宵
春路
護物
冬夜
秋拳
素心
菊所
護物

御影堂

甲斐 久遠寺

権佐の持の先く 身 庚山
雪の影の影を宛く 月 庚山
雪の影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山
久きもの影の影を宛く 月 庚山

士朗
葛三
谷雄
杉長
尺徳女
祐昌
素心
素心
晩籟
任心

美

○武藏
○真如堂

この後ろ志る水奈く流るる如堂
秋枯の夕らるる

一樓

○七大寺

志るる七寺もあや
いさ出て強月るん
古きやと水もたき

魯隱

○武藏

芍薬の畑つるもや
夜ら水や積あるも

護物

○武藏
○新名寺

く中らも里あふもや
志かろもや根ふたの
志かろ寺や志のい

冥々

○近江
○志賀寺

志かろ寺ハ
早蕨や子ハ志かろも

乙二
雨測

○全
○日枝山

早蕨や子ハ志かろも
株うさくおひらるる

菜静

○武藏
○本母寺

比叡の志やまの處を
大ひえや小日枝の

米夜

○武藏
○本母寺

花の雨比叡えくぬ
まらぬよゆらん

蒼虬

○武藏
○本母寺

比叡をいそ子願生
本母寺も蓮子から

素志

○武藏
○本母寺

本母寺の秋ハ
比叡をいそ子願生

菜静

○武藏
○本母寺

本母寺の秋ハ

米夜

本母寺の故くふくさるや森と月
 本母寺をくふくさるや時々
 本母寺の夕照を中す 萩の森
 本母寺や故くふくさるや
 本母寺の故くふくさるや
 本母寺の故くふくさるや
 本母寺の故くふくさるや
 本母寺の故くふくさるや

^{下野} 茂林寺 梅壽
^{山城} 清閑寺 曉臺
^全 聖護院 圍更
 月多の月夜に月夜に
 月多の月夜に月夜に
 月多の月夜に月夜に
 月多の月夜に月夜に
 月多の月夜に月夜に
 月多の月夜に月夜に

早秋や人の通るぬ 聖護院 孤電
 梅の葉や人の通るぬ 聖護院 旬光
 所梅や所 並にさき 聖護院 大梅
 世多の月の夜に月夜に 聖護院 亀白
 世多の月の夜に月夜に 聖護院 護物
 世多の月の夜に月夜に 聖護院 羅城
 世多の月の夜に月夜に 聖護院 一肖
 世多の月の夜に月夜に 聖護院 斗入

全 関地藏 古袈裟の冨の地蔵や益ねる
 秋の月や冨の地蔵のふりまき
 古袈裟の冨の地蔵や益ねる
 古袈裟の冨の地蔵や益ねる
 古袈裟の冨の地蔵や益ねる
 古袈裟の冨の地蔵や益ねる
 古袈裟の冨の地蔵や益ねる

全 関地藏 古袈裟の冨の地蔵や益ねる

武藏 泉岳寺

信長 泉岳寺

東山 一首

近江 関寺

信長 関寺

夜鹿 護物

信濃 善光寺

信長 善光寺

杜蘭 標良

山城 墨江深寺

信長 墨江深寺

卓二 甘行

摂津 須磨寺

信長 須磨寺

長齋 玉蓮

陸奥 瑞巖寺

信長 瑞巖寺

乙二 塞馬

瑞巖寺

麦園 柿磨

瑞巖寺

大梅

瑞巖寺

乙二

瑞巖寺

大梅

瑞巖寺

乙二

瑞巖寺

大梅

信長

信長



○神社之部

○濱社

春雨や傘持しはるる後社

白雄

炬火もきく時つらくは後社

亀白

相つぬ力のきり日永くは後社

護物

○古宮

古まや志守アもあけ草履手

漱石

ふもふ水の水もあや軍古宮

梅塙

○^{撰津}今宮

いまふれ輝掃志をり時を

召波

とふれ月あはるる春の軒

元醒

○^全生田社

里人やまめさ生田の里系

月居

冬の月生田の社つらハ也

元醒

○^{常陸}息柁社

さく梅の息柁ハ梅の名栗あぶ

恒丸

かきさく息柁の鶴の汐もさ

啓山

水多の汐や息柁の東の原も

如英

○^{安藝}巖島

梅もさく岩もさくやつら志波

首三

春の夜のまふもはるる越く宮

葵亭

まはるや汐もさくもさく水

甘古

佐保姫の古くあまや巖島

宿臺

稲の粒もさくもさく麻や巖も

巖島

伊波不

山城 橋姫宮

くし姫はちひさきと初冬り雪
橋寺の静をくし姫の夕柳
くし姫の灯をくし姫の床のあぶ
橋ひめのくし姫通るやまのさき
下宮をくし姫のくし姫お思ふ
かはくし姫梅を東のくし姫山
出やらぬくし姫の月を羽黒山
涼くし姫や春を吹くくし姫羽黒山
くし姫雨や新田の神は種部
くし姫のあきくし姫進子くし姫田くし姫

春
素志
沼人
吳光
柳九
長翠
詠歸
鶏周
黒湯女
希拙

出羽 羽黒山

武蔵 新田社

谷 富丘 八幡宮

山明や老くし姫のくし姫
くし姫の日や鳩を杖持やるくし姫
牡丹くし姫や春ゆくし姫のくし姫
くし姫からくし姫日くし姫のくし姫山くし姫
くし姫くし姫くし姫くし姫くし姫
くし姫くし姫くし姫くし姫くし姫
くし姫のくし姫くし姫くし姫くし姫
くし姫くし姫くし姫くし姫くし姫
くし姫くし姫くし姫くし姫くし姫
くし姫くし姫くし姫くし姫くし姫

棧車
亦云
さらを
可厚
叢
存義
曉臺
直也
楚龍
み

信濃 戸隠山

山城 地主権現

近江 竹生嶋

登波 知亦

武藏
王子権現

涼風やゆるゆるとまきし
連やおぼろに中よ竹生島
新鳥の露ようまきし
夕立の入口おろそや竹生島
夕霧王子のまきし
初午や江戸よ来りる王子屋
まつばらとあそびに王子屋
おろそや王子の北の山さくら
賀茂の灯を照らし先よ鳴子
かちへ来て控火の御法事

和
鎌倉
東邊
一種
佛朔
乙人
里丸
詠歸
曉臺
乙二

山城
賀茂社

天和
春日社

鳴る雀か茂の社をさけし
十月やか茂の社の大掃
草はらぬ葵まよぬまか茂の秋
鐘 月まよりの鐘のすえり
こねものえま喜日のあけぬ
ゆきさね梅やきけり
松の家く中をさけり
おろそや王子の北の山
りよの心人まよぬ
秋よある草まよぬ

谷雄
一路
護物
西六
東芽
雨洲
禾木
吾彦
蒼鼠
乙二

摂津
高津社

伊勢
神路山

和加

花一市り何んくらと非時山
 物多きわさ人のきわ非時山
 市後まもるおむらや神田川
 柴崎の神楽まゆる後り月
 掌や亀戸へまゆる新あらし
 吳井や亀戸のまゆるの雨
 後らりもまゆるまゆる月り霞
 鳴りぬけあらしの文あし
 ころころまゆるまゆる香たの香居が
 鳴りぬけあらしの文あし

百
 護物
 梅壽
 一司
 奎儀
 護物
 春鴻
 恒九
 五十二
 千加女

武藏

○神田社

柴崎社氏

全

○亀戸

天徳宮

下総

○香取社

鹿嶋社

五月の雨をいかにまの雨りあ

吾彦

水札ふくや藤崎乃えのくわ泊

棧車

あけのつや雨の旅のきしき

双史

水多しや町のつやまや藤崎舟

いと女

藤崎の背は藤崎のつやま

尾花

村の山も藤崎のつやま

志分

藤崎のつやま藤崎のつやま

栗大

梅白く藤崎の社の門遠へ

椿堂

早きやむらふよま藤崎の屋

文卿

志くましく藤崎のつやま

の根世

豊前

○高良山

近江

○多賀社

○中
二

山

立山や平なを入層のくも
 ぬ中ハくぬ立山の月あつぬ
 立山ハくあつぬ月あつぬ
 立山や雪あつぬ月あつぬ
 立山も雪あつぬ月あつぬ
 初汐よのきくすくすく玉津島
 ちつちつや子母の中は玉津島
 ちつちつや子母の中は玉津島
 その雅やあつぬ月あつぬ
 合穀のむさくや津島の茶の汐

標

玉屑

布雪

甘行

双湖

春踏

護物

雨塘

玄く

梅壽

紀伊

玉津島社

下巻

○曾我姫宮

尾張
○津島社

武蔵
根津権現

下野
○室社

かき汐の津島系や風うほ
 日の影を根津の社や海さく
 宇治の海さく
 秋寂了水は根津のお世な
 三葉吹や根津ハく
 掛えハく
 雨ハく
 中々の峰室のハく
 行ぬらひす
 子をあつぬ

汐水

好く

双湖

石湖

護物

日人

巴堂

首亭

榮静

夕子

多
津島

下

下

筑前
宗像社

山城
太秦社

全
梅ノ宮

草笛の宗像多岐小春くぬ
宗くぬや村くぬ浪も西の巻の巻の
太秦ハ村はくぬく夏の月
ちの美市やワラサの村くぬ灯のくぬる
西山やちの美市まてくぬ美
ちの美市の敷きけくぬち根くぬ
ちの美市の敷きけくぬち根くぬ
川ぬや燈くぬ志くぬ梅の美
河くぬ地くぬ木の屋くぬめくぬ
宮くぬやきくぬ梅の屋梅の宮

夏柱
護物
士朗
野揚
嵐外
井里
護物
東我
斗行
元風

武蔵
牛車取社

山城
野ノ宮

根津
呉服宮

鯨口ハ牛の車取の日取くぬ
牛島ハ月くぬくぬの美くぬ
木の美くぬや良くぬふくぬ木の美
野の美くぬ灯くぬ清くぬ郎くぬ
木の美くぬ能くぬ美くぬはくぬくぬくぬ宋君くぬ
木の宮くぬはくぬ美くぬ美くぬ納豆汁
木の美くぬ乃燈くぬの美くぬ美くぬや美くぬ美
虫くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ
木の美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ
木の美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ美くぬ

衣月
喜柱
雨考
一囀
涼瀟
月底
素撰
屋烏
冷水
根車

出羽山

月山の雪はつゆもかたつを

嵐去

月山の雪はゆるや時鳥

一具

涼しき世に月山は素乳哉

一肖

五月のそよみは月山の

箕香

くさかや春をよゆりて

甘行

ゆるりたるや氷柱もちりて

岐守

いづつ香や雪もさすくは

叢

ふきの雪はゆるや八幡山

梅塙

雪の心苦ははるのたを

乙二

雪おのふるりてや

篤亮

越中 俣梨伽羅峠

山城 八幡山

越後 弥彦山

大和 布留社

相模 江之島

稲の香やほむのふの雪初る

東峰

ふさ守むはほるのるの

赤守

月落を布留の社に

如雪

木枯や布留の神木

世南

帰場はほる布留の社

元風

鶯のそよみ布留の

夏桂

まはるにつけても布留の

襦物

江の崎をえくけて

谷雄

江の崎や月並日の

一具

江乃島やいらぬ

一瓢

不久江也

折下

下

下卷
○千見女社

江の宮ふ并禁くあのはるふ
江の島の雨やけしきその入
いづれ世もゆき見女く妻の杖
は東陽急やてまのあハ雨の中
巾衣やあま宿も山はきく
岩公入のおこり越るや新日和
明月やいづれ新く人のうけ
雪の路あつきの山を中みりて
赤枯やあま宿も山はきく
身まのける花の雨や候とを

豊女
茶静
田美
大鏡
一肖
蘭舟
谷雄
如孫
禾葉
鱒

山城
○愛宕山

和泉
○蟻通社

伊勢
朝熊宮

尾張
熱田社

遠江
秋葉山

下卷
阿諏訪社

夕立の鞭もまはるは蟻通
扇より大ましく赤野何き戸ふ
畑より新さ連出来て新熊山
新くまや赤草はあま五月雪
いづれもえ熱田の借る此のそらけ
初春のあややいづれ新さ馬
切舟の秋葉もあまほるま
夕立の秋葉もあまほるま
かたもあまほるま秋葉の禁はけ
はるまもあまほるまの子供哉

石湖
赤守
了女
護物
三生
复桂
越児
沙明
复桂
玉光

祀伊
淡嶋社

山城賀茂
齋院

大和吉野
藏王権現

甲斐
酒折宮

梅うまや阿すいの小葉いつ枯

淡島や幣ふかきゝ雑の獲

乃の概きさす淡宮訪くふ

斎院の人鳥の巢をかへし

ひさよひや斎院の世のおもて

新巻云くや藤五の鼻の下

花を暗く藤五の赤足履き

酒折の楠もろやけ鈴子のあ

酒折八十日も建し菊枯れ

さう折や折も初冬の杜能

旬光

草雅

護物

車両

梅壽

存義

護物

吾彦

乙二

甘行

讃岐

象頭山

酒折のしぬあそびや小田原

雲をよきそとていづる象頭山

峰とけの石ふ味し象頭山

情多の雁を押しや象頭山

祇園戸乞老は日く帝女殿くふ

ひくお葉祇園の節系すえり

山城もちくくまの形のほく

おのまよきおの巫の箒裁

多の葉やつもまの形の

灯のしぬきおのまやあける

護物

月居

寄菊

谷雄

涼柿

菖亭

維駒

召波

竹見

多代女

全
貴船神社

山城
祇園社

備中
土屋備津宮

出羽
湯殿山

大和
三輪社

立野のきりぎりすのきりぎりすの灯
まろ柳や吉波ははた金の銀の
もちる香ハ吉波ははた金の銀の
はくまぬ湯殿のきりぎりすの
雪ふんてりつる涙の湯殿の
下りぬそりつる涙の湯殿の
五月の月や湯殿のきりぎりすの
稲垣の三輪の前のかきりぎりす
うけりつる雪のうけりつる
清なる水はきりぎりすの

化地
夏桂
護物
鳥躰
柳儿
鶏岡
仙花
呼亭
雀角
玄流美

伊豆
三嶋社

北蔵
三園社

神の樂や三嶋の葉のまはる三輪の
月のかきりぎりすの
柳枝ぬの時の水やいづれも
雪の跡をぬるはの昔の
いとほしき雪の跡をぬるはの
三嶋のきりぎりすの
まろ柳や吉波ははた金の銀の
三園や月夜をうけりつる
三園や田うかきりぎりすの
三嶋のきりぎりすの

梅壽
さち枝
五七
五況
有臺
暮非
郁賀
叢
終水
護物

美由

○^全水稻荷

只をよき花よ穂るや水稻荷
ちるよのゆき下を水稻荷

西月

○^{信濃}御嶽山

御嶽や雪らる中の雪らる終
終るゆや御嶽をわらぬ雪の雨

素檠

○^{上野}妙義山

妙義山の水をさぬ妙義山
妙義山妙義のそゆる雪をさぬ

念分

○^{山城}下鴨社

下鴨の社をよゆる土用うら
下鴨の人遠くする所をよゆる

一肖

下鴨の社をよゆる土用うら
下鴨の人遠くする所をよゆる

兼心
亀白

○^全神泉苑

神泉苑の夜を雨
雪の降ゆ神泉苑のよとを

朱佛

○^{美濃}惠那山

惠那山の初日をよゆる
柿をりや一日をよゆる

赤守

○^{紀伊}檜隈宮

檜隈の宮の初日をよゆる
むのこや初陽をよゆる

竹逞

○^{豊前}立次山

立次山の初日をよゆる
松をりや初陽をよゆる

護物

○^{横津}住吉社

住吉の社をよゆる
住吉の社をよゆる

一肖
介亭

美濃
比寸

任吉や夕日のさるる雨の中
任吉の宵明ふるきし程くぬ
才美よりや老るる水は秋の月
任吉の灯より身より秋の田

田都喜
涼谷
秋舟
大梅

雑之部

伊勢
の伊勢蟹

いせの蟹もほろり口はゆるはもる雪

合彦

ゆきよ身はくちつ侍跡の侍士

尺艾

明月や繁とく物いさの夜虫

谷雄

伊勢の蟹もまよふ糸色はしな

護物

上野
伊香保風

いづれ風も吹く秋の葉もよる

具

志くく月をすまはれやいづれ

應尼

伊香保風もふくやふ吹百合の上

以吉

伊勢
濱 萩

志くく水もあはれ花もははれ萩の

時嘉

志ははれ萩のむつもははれ萩の秋

くさ

伊波

相模
○虎ヶ石

浪々子以是たけりやろろもえ
又もどく川持てまゝるや席うそ
君もよき徳もよきけしとくろそ

春路
石段美

梅壽

護物

武藏
秩父松

雲霧と動くらんあけしり席うそ
その箱の雲あまきり水くちぬ松
ちくち松やま方の中うく松のそ

長翠

了清女

守光

常陸
○要石

松のあけまきとちくちの松 曇
陽きりの目もまきゆるけあ石
鶴鶴の志をいれしとやあめそ

柳儿

玉珂

近江志賀
辛崎松

糸船の松の親も志望の松

一草

相模鎌倉
○段首

赤也葉や辛崎の松二本あけそ
辛崎ハ一本てよりこの美とそ
月くくる月をうけかつ志望の松
のう達の松はぬゆくもきり松
時きあけや東海の水うつそ

卓雅

午心

護物

玉光

以吉

みそ

川峩

武藏
○高馬場

満月をうる田のう場の目あけや
その葉とくやう田のう場を日浪と

伊奥
武隈松

鳥のむ武隈の松ハ枯れしを
武くすやまの松くすも新

加登
多知

曾根松

駿河富士 鶴芝

武蔵 梅屋鋪

岩のまじり松風もつき雪根の宿
 春風の音根の宿 初 給
 ぬ月の夜もさへる根の松
 つもさへるもさへるの松 松花
 松芝のまじり松の宿 藤原
 つもさへるもさへるの松 小月
 松芝のまじり松の宿 梅屋
 さめさへるもさへるの松 梅中
 さめさへるもさへるの松 梅中

碧水
 平雄
 詠傳
 合彦
 菅笠
 茅磨
 梅壽
 改二
 みち彦
 一蕙

伊勢 大淀松

下野日光 御花畑

尾張阿波手 藪香物

伊勢 不折栞

水鏡の宿 梅屋
 一本の宿 梅中
 大淀の宿 宿る 宿 途
 大淀の月より水に松を昔
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子
 夕立の宿 花畑の 宿 子

川跡
 梅壽
 白圖
 護物
 寄洲
 庵十
 柳居
 表丁
 玉屑
 壽翁

曾津止 殆夫不

信濃
布施家

相模
腰越

武蔵
五本松

稲つゝしほまのぬきも布施屋の
千産 蒼乳

花もつゝま出たはるの月伏屋の
春曉

志つゝはらわ山のふきわハ軒をカ
召波

後越や孫々ふきまをく
士朗

あつゝまやらてわまう一具の口
谷雄

後越やまをぬき若のまをく
の良

あつゝ越の波をく
護物

後まをぬの浪もく
昌作

くつはまやとの川上ハ五本松
杜英

雪も水まをぬき五本松

陸奥
九面

伊勢
鷓鴣石

陸奥
姉齒松

駿河
はらふの松

方同をぬき葉よ夜汐もく
兼角

あつゝつゝや余もく
一月

こつはらや一層もく
三生

来之月おりのまもく
大江丸

雪のまもく
里湯女

折子よ姉齒松
曉臺

出たま入の姉齒松
首三

あつゝはら 姉齒松
旬光

はらふの松
魚目子

さるん市の松
里湯女

二五五

何不
左古

都鳥

遠くはるかに
初雪や玉の山に
秋風よあつちと
けこるやとつち
鶴の姿も知らぬ
草はくはげしく
志しぬ空のてま
る竹よ刺しては
又字探も志しぬ
世の事もさうも

谷雄
木権
清波
壺子
玉屑
斗入
玉屑
柳下
里邊女

籠
志しぬ火

陸奥
○文字摺石

○住江松
岸 姫 虫

住よかたねを
住のいのちも
すくすくかたね
神を月夜に
住よかたねを
住のいのちも
すくすくかたね
神を月夜に

全夜
惟丸
東峰
護物

美
寸之

江戸本石町十軒店萬笈堂 英 平吉板行

嵐雪句集 全二冊

此の性質もやうく閑して寂かゝるゝ似て
一草の氷のうらみとて水よりなむひやうあり
今更吟して後餘韻ありけり況や時ふり花鳥
風月を友とて思ひつゝ一め此句集もつゝ能
のまゝいゝる風情のありあやうくをいれ

其角叢句集 二本 久藏大人校

ひねりの吟句々錦る今更何の辨を待んるや
天地の神をうらみ梅ささて千歳の學者や
あつゝ耳を驚せり今びあう一代の句もつゝて玄の玄

あつとせしるういそくより一の山は狩花とえらぬが如し先生
一代の英雄といふほどは集よのりかきそんごころをさし

蓼太勺集

初編二冊 二編二冊

全部六冊

吐月呼曾て伴す雪中庵蓼太まむせぬの願とさうり其角の
花をわくそひ嵐雪の寂を我家よりとめ先生力を一世に
按屋せみぬは似たりり蕉風の正室を撰そこのあうと
見よせの人とら

今古假字格

折本懐中本

古の形を万葉集より和名抄等數本より今の形を定
家の形づひ江戸校正をよとめりり形づひの便よりいひ
書よあくはを

三三三

俳諧發句古今撰

蕪菴蟹守大人撰

全二冊

此書は古今選と題す於本を明和安永の頃の作者
を指して古人といひ享和文化のころより法を揮て
今人といふ大凡載る所の古今の宗匠名義の
勿論やれども百句ありて十句とらるる十句小
して一句をさわりされども善の善なるものにして
すは徳家の勺集よのりかき所すくまきかき
俳諧執ふ乃かきくかきくは見たるべき書と
かきくはめらとよふ書と勺集より

江戸本石町十軒店 萬笈堂 英平吉板

三三三

